



学校だより

No.539

令和 4年 7月1日
練馬区立田柄第二小学校
校長 岩井 一 雄

教育目標 : 元気な子ども ・考える子ども ・思いやる子ども

夏休み 石神井公園 三宝寺池の思い出

校長 岩井一雄

小学生時代、石神井公園が絶好の遊び場であった。石神井城跡の土塁を滑り降りたり、三宝寺池(さんぼうじいけ)の沼地に足がはまって身動きが取れなくなり、もはやこれまでか、という思いをしたりするなど、今では考えられない経験をしたものだった。だが、当時のわんぱく少年たちも、決して近づかない場所があった。三宝寺池の中心部にある浮島(中の島)である。島の樹木にはフジの蔓が さながら大蛇のように巻き付き、そのうえ丈の高い植物も密生し、内部の様子はわからない。ここが国指定天然記念物の三宝寺池沼沢(しょうたく)植物群落であり、冷たい湧水によって最終氷期から生き残ってきたミツガシワやカキツバタなど北方系の湿地植物が生育していると知ったのは、中学生になってからのことであった。

しかし、郷土資料室(今の石神井公園ふるさと文化館の前身)の蔵書や過去の写真を調べてみると、湧水の激減による水質の悪化や、管理の停滞などによって、この沼沢植物群落は絶滅寸前の哀れな姿になってしまっていることも分かった。何か自分にできることはないかとも考えたが、一個人ではいかんともしがたく、沼沢植物の分布図を作成したり、写真に撮ったりしてレポートにまとめるに留まっていた。

やがて昭和も終わりの頃となり、世間で身近な自然の保全が話題となることも増え、石神井公園でも三宝寺池沼沢植物群落の保全に向けて環境調査が行われるという情報を耳にした。千載一遇のチャンスとばかり、調査の担当者に頼み込み、大学生アルバイトとして浮島(中の島)内部の調査に参加させてもらうことになった。

調査当日、ボートで渡った浮島内部は蒸しかえるような暑さで、ヘドロのような泥土のにおいが鼻を突いた。何度も足をとられ、調査員の中には胸まで泥に浸かってしまう者もいた。生育している湿地植物の多くは外来種のキシノウブばかりで、在来種のカキツバタは見当たらない。もう引き返そうか、と諦めそうになったとき、黄色一色のキシノウブの花の中に、ちらっと紫色の花が見えた気がした。はやる気持ちを抑え、キシノウブの株をかけ分けると、そこにわずかに四輪、健気に咲いているカキツバタがあった。永年探し求めていた友に巡り合ったような気がした。その瞬間は今でも忘れることができない。

その後、平成に入り三宝寺池では日照を遮る大型植物の刈り取りや外来種植物の徹底した除去、絶滅寸前の希少種の保護増殖が実現した。数年前からは年3回ほど、30名程度が見学会として浮島に上陸できる機会も設けられた。上陸した人の話によると、尾瀬や上高地の湿原を思わせる空間が広がっており、特にカキツバタの開花期は筆舌に尽くせぬ美しさであるという。しかし上陸できる人数は限られ、まさに秘密の花園である。

現在、石神井公園ふるさと文化館で「企画展 石神井公園」が開催されています。歴史や自然が幅広く紹介されており、浮島内部をドローンで撮影した美しい映像も放映されています。8月14日(日)まで観覧無料で開催されています。夏休み、親子で訪れてみてはいかがでしょうか。

7月の生活目標

「学校をきれいにしよう」

清掃活動を通して、子供たちには次の二つの力を身に付けてほしいと願っています。一つ目は、誰かに指示されて清掃をするのではなく、きれいにするために、自分は何をすればよいのかを考え、行動する力です。二つ目は、自分のためだけではなく、みんなのために働くことを喜びと感じられるような、みんなのために働ける力です。ご家庭でも、夏休みにこのような視点で掃除を見直し、話し合ってみていただけたら幸いです。